娘の自己愛が過剰

Ｑ　3歳の娘は毎日、鏡の前で「私が一番かわいい」とつぶやいています。帰宅したときは必ず、玄関にある姿見の前でポーズを取ります。「一番」と言っているのが過剰な自己愛の表れのような気がして、将来どのような性格になるのか心配です。

Ａ　童話「白雪姫」の中では、それを鏡が答えますが、娘さんは自分が答えているのですね。でも娘さんがそう言って、親は「そんなこと自分で言うもんじゃありません」などと言いながら、心の中では「同感！」と思っているのではないでしょうか。

親というのはわが子が世界で一番かわいいものです。私もそうでした。よその子供は、どんなにかわいくても「ごく普通の子供」に見えます。でも、それでいいのだと思います。

恐らくこれまでの3年間、娘さんはパパから、あるいはおじいちゃんから「お前は本当にかわいいなあ」と言われ続けてきたのではありませんか。「世界一かわいい」という言葉も聞いたかもしれません。また実際、「かわいい」という意味が分かる年頃になった今、「あら本当だ」と、自分もそれを実感し、うれしいのでしょう。

子供は3、4歳の頃から、自分は女（男）の子なんだと意識するようになり、一般的に女の子はかわいいものやきれいなもの、男の子はカッコいいものや強いものに憧れ、自分もそれに近づこうとします。心理学では同一化というのですが、娘さんも女の子の自覚が出てきたのでしょう。

この年齢の子供に「うぬぼれるな」「謙虚さを持て」と言っても無駄で、むしろ今は思ったことを何でも正直に言う時期です。そう思ったから言っただけなのに、「そんなこと言ってはダメ」と注意ばかりされると、思ったことを言わなくなることがあり、その方が問題です。今は「おうちで言ってもいいけど、よその人の前では言ってはだめよ」と言うくらいでいいと思いますよ。でも、お子さん、本当にかわいいのでしょうね。

（こどもコンサルタント）

不在文字情報（0）
不在画像情報（0）
最適化未処理情報（0）
モノクロ不在画像情報（0）